

	<h1 style="text-align: center;">進取の気概</h1> <p style="text-align: center;">(校長室だより)</p>	<p style="text-align: center;">有田市立箕島中学校</p> <p style="text-align: center;">自主 友愛 剛健</p>	<p style="text-align: center;">R3・6・11</p> <p style="text-align: center;">No.13</p>
---	--	--	---

季節それぞれの風景や色、香りなどを意識して感じ、楽しむことができると心や生活がより豊かで潤いのあるものになります。みなさんにはそんな感性豊かな人になってほしいと願っています。そこで、今の季節の話を紹介します。

〈風流の はじめや奥の 田植え歌〉

1689年6月8日頃、松尾芭蕉が白河の関（今の福島県）に着いたときの話です。白河の関というのは奈良時代から平安時代にあった国境の関所で、芭蕉が生きていた時代には、“和歌の名所”として知られるようになっていた場所です。芭蕉にとっては、西行法師や能因法師といった名高い先輩たちが訪れ歌を詠んだ憧れの地でもありました。ここから先がみちのくと呼ばれ、楽しみにしている「奥の細道」にさしかかります。訪れることができた興奮から、なかなか句ができず、芭蕉は弟子の曾良とともに白河の関跡にたずんできました。そのとき、遠くから田植え歌が聞こえてきました。芭蕉は歌が聞こえてくるあたりに目を向け、「やっとできた」と言い、

風流の はじめや奥の 田植え歌

「ここよりみちのくの旅が始まる。この白河の関で、のどかな田植えの歌を聞いて、早くも風流を味わうことができた」という歌を読み上げました。芭蕉の旅は名所や旧跡を訪れ、先人の感じた心を味わい、新しい文学を作り出す旅でもありました。

〈紫陽花の花〉

梅雨の花といえば、アジサイです。赤、青、白など色とりどりの花が箕中の庭に咲いています。花の形もさまざまで見ていると心が和みます。玄関のモニターでもお知らせしています。休み時間などにじっくりと鑑賞するのもいいですね。晴れた日のアジサイもいいですが、しとしとと雨の日にたたくアジサイもこれまた風流です。いい句が浮かんだら教えてください。



6/8 箕中の庭のアジサイ